

日交研シリーズ A-625  
平成 25 年度共同研究プロジェクト  
職業運転者の高齢化が交通事故情勢に与える影響  
刊行：2015 年 4 月

職業運転者の高齢化が交通事故情勢に与える影響  
The impact of professional drivers' aging to road traffic accident

主査：西田 泰 公益財団法人交通事故総合分析センター  
Yasushi Nishida

要 旨

人口の高齢化が進む中で運転者の高齢化も進んでいる。高齢運転者の事故率は他の年齢層の運転者の事故率よりも高く、高齢運転者数の増加は交通事故の増加につながることから、社会・経済活動を支える道路輸送の担い手である職業運転者の高齢化が事故情勢に与える影響が懸念される。

職業運転者の高齢化と交通事故の関係を調べるために、交通事故統計データを使った分析、及び全日本トラック協会と全日本ハイヤー・タクシー連合会の関係者に対するヒアリングを行った。さらに、ヒアリングで、職業運転者となる若者の減少、車種（職種）の変更志向の変化が示されたので、運転者管理データや運転者管理データに事故・違反歴を統合させたデータベースを使い、免許取得や運転車種の変更の状況を調べた。

その結果、以下のことが分かった。①職業運転者の高齢化は車種により異なる～定年時期や若者の参入状況が異なるため、事故運転者の平均年齢の上昇傾向は車種により異なる。②若者運転者の減少傾向は質的にも確認される～大型免許や二種免許取得年齢の推移をみると、若い世代（誕生年が新しい）になる程取得率が低くなっており、職業運転者になるための免許取得傾向は質的にみても鈍っている。③職業運転者は同じ車種を運転し続ける傾向にある～特に、バスやタクシーの運転者は貨物車の運転者に比べて同じ車種を運転し続ける傾向が強いが、加齢とともに弱くなる。また、法人タクシーから個人タクシーへの変更は 50～54 歳が最も多く、それより高齢になると急激に低下する。④職業運転者の（少子）高齢化が事故情勢に与える影響は小さい～年齢と事故率の関係は U 字型であるが、定年制によって年齢に上限がある現在の職業運転者の年齢分布であるならば、運転者の高齢化は必ずしも事故件数の増加にはつながっていない。

④の結果は、当初予想していたものとは異なるが、今後も若者の参入が少ない状況が続くと事故率の低い中年運転者が少なくなり、交通事故が増加する可能性は高くなる。

今回の研究では、職業運転者の高齢化は交通安全よりも若手運転者不足という観点で問題であることが明らかになったが、長期的にみると交通事故の増加の可能性は高く、“少子高齢化”という観点からの職業運転者の交通安全対策の検討が必要と考えられる。

キーワード：職業運転者、交通事故分析、事故当事者率、相対事故率、準道路交通暴露率、無過失事故運転者

Key words : Professional Driver, Road Traffic Accident, Accident Driver Rate, Relative Accident Ratio, Quasi-Induced Exposure Rate, Not-at-Fault Accident Driver